

# 圓福寺報

## 謹賀新年



### 平成24年 元旦

圓福寺報 第六十号  
 平成二十四年一月一日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一  
<http://www.chiba-enpukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

#### 目次

寺説「東日本大震災、お寺の取り組み」	2
市原別院の名前決まる！	
「大廣山耕雲寺」	3
年頭法話	
「龍吟すれば雲起こる」	4
二順目第八回	
「四国歩き遍路の旅」	8
第九回四国あるき遍路のご案内	11
第二十回圓福寺寺子屋	
「禅童会」感想文	12
穴川花園幼稚園 園だよりから	
「絆（きずな）」	15
土曜会・写経会・茶禅会	16
妙心寺参拝の旅	
ご詠歌全国大会見学	17
第三十三回花園会ゴルフ大会	17
お寺と和尚の日録抄	18
平成二十四年年忌表	18
平成二十四年行事予定	19
花園会新年会のご案内	20

干支色紙・星久喜町吉田和子さん作

## 寺 説

東日本大震災、  
お寺の取り組み

三月十一日の東日本大震災に際し、お寺は何をしたのか、何かできたのか、ひたすら反省を込めて振り返ってみたいと思う。

寺務所で仕事していると揺れが始まり、最初は大きいことがないと思っていたのが、次第に揺れが大きくなり、止まりそうもない。幼稚園は降園時間中だった。とっさに縁側から幼稚園に走りだしていくと、園庭の真ん中に子どもたちが先生と共に、体を低くして集まっていた。大師堂の前では迎えのお母さんと子どもたちがどうしていいのかわからずに周りの様子を窺っていたので、「しゃがんで！」と言って、側にふらつきながら立っていた。その場所から本堂を見てみると、瓦が龍のうろこのように波打っていた。そのうち、瓦の下に詰めてある土がいくつつか落ち始めた。瓦屋根は、瓦の下の土が落ち始めたのを思い出し、これで本堂もだめだなと思っていたら、揺れが収まり

なんとか事なきを得た。

大震災翌々日は、春彼岸法要。まだ余震が続く中で、開催か中止か迷うところだったが、中止にするにしろ連絡する時間もなく、出欠は各自にご判断いただくことにして、法要を務めた。ただし、余震もあることなので、法要のみとし法話は中止にした。

大震災および大津波の被害はニュースなどで伝えられていたが、何をしたらいいかも分からず、四月十六日に「復興祈願写経会」を開催し、納経料十万七千円を、あしなが育英会東日本大震災・津波遺児支援資金に寄付させていただいた。

四月十八日から、岩手の生家に行き、位牌堂や書庫の片づけ。

四月二十三日、幼稚園の市原ボランティアで、被災地に送る分も含めて、里芋四百坪植え付け。

五月十七日、幼稚園年長児が米を作って被災地に送る活動をするにあたり、被災地で作付できなくなった苗を

引き取りに行く。いわき四ツ倉のJAに行き、津波の被害を目の当たりにする。

五月二十一日、市原の畑に、幼稚園児親子ボランティアとともにさつま芋の苗植え。被災地分も含め千五百株。

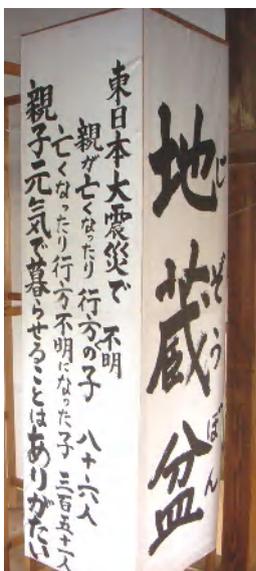
七月禅童会で、市原に植えたジャガイモを収穫し、約百キロ被災地に送る。

十月十四日、五月には中止にしたゴルフ大会を復興支援のチャリティゴルフとして開催。津波遺児支援資金として三万九百七十円を寄付。

十月、花園会員見舞金を本山に送る。六十九万二千元。(1201現在)

十一月十一日、市原別院収穫感謝祭。被災地に送るべく残しておいたさつま芋は、イノシシに荒らされて収穫ゼロ。里芋は荒らさせておらず、約八十キロを被災地に送る。

十一月十四日、幼稚園年長児が収穫した米を鴨川市に避難している施設に届けた。その後、いわき市の被災幼稚園・保育園へも送った。



## 市原別院の名前決まる！

長い間、仮称として市原別院と呼んでおりましたが、この程、正式な寺名をつけていただきました。

過日、住職の修行時代の師匠である、埼玉県新座市の平林寺専門道場元師家、放牛窟系原圓應老大師に市原までご来駕賜り、現況を「高覧の上、「耕雲寺」（こううんじ）と命名していただきますし

た。また、山号につきましては、別院でもあるので、圓福寺の山号をそのまま使うのがよろしかろうとのこと、「大廣山」（たいこうざん）となりました。【右の墨跡の通り。】

「耕雲」は、訓読すれば「雲を耕す」となります。以前、ベトナムの北部に旅に行った時、バスで山中を走っていると、車窓から千枚田を見ることができました。それは、数百メートルの山の頂きに向かって谷底から続いていて、日本の千枚田の比

ではありません。谷底から見上げると、それは空にまで続いているのではないかと思うほどのスケールでした。日々耕し耕しして、何百年という営みがそこにはありました。

「耕雲」には、そんな果てしない営み、不可能だろうと思ってしまうことでも、日々の精進がそれを可能にするというような意味が込められていると思うのです。この「耕雲」を励みとして、耕雲寺の護持に務めてまいりたいと思います。

大廣山 耕雲寺

平林第二十三世放牛窟圓應謹書



# 龍吟ずれば雲起こる

ぎん

あけましておめでとうござい  
ます。

昨年、東日本大震災で被災さ  
れた方には、心よりお見舞い申  
し上げます。

今年は辰年で、十二支にはそ  
れぞれ動物が当てられています  
が、その中で唯一架空の動物と  
して当てられているのが、今年  
の龍なのだそうです。

## ■身近な龍

昔のラーメン井にはたいがい、龍の姿がプリントされてい  
ましたが、最近のラーメ  
ン屋さんにはしゃれている  
ので、そんなどんぶりに  
お目にかかることも少な  
くなりしました。



妙心寺派であれば、ラーメン  
井よりも、妙心寺法堂の八方に  
らみの龍を先に挙げなければ、  
不謹慎かもしれません。

妙心寺に限らず、臨済宗の本  
山など七堂伽藍が整っている寺  
院の仏殿や法堂などの天井に  
は、よく「雲龍図」として龍の  
絵が描かれています。「龍吟ず  
れば、雲起こる。」と言われる  
ように、龍と雲とは切っても切  
れない関係で、龍は雲を起こし  
雨を操ると言われています。

雲水が托鉢をして歩くとき  
に、大きな声で「ホーッ、  
ホーッ」と言いながら歩くので  
すが、この「ホーッ」は「法  
雨」のことで、托鉢をしながら  
「法雨、法雨」と言っているの  
です。雨が全てに行きわたるよ  
うに、仏さんの教えの雨を降ら



せて歩いているのだと、先輩の  
雲水が教えてくれました。

そこで、禅宗寺院の天井など  
に龍が描かれているのは、龍が  
雲を呼び雨を降らせるように、  
その場所では教えの雨を浴びる  
ことができるという意味になる  
のです。その上、妙心寺法堂の  
龍は、八方にらみと言われます

ので、四方八方すべての人々に  
ということが強調されているの  
だと思っています。

さて、ラーメン井の龍です  
が、中国では龍は皇帝の象徴と  
されてきました。龍の身体的特  
徴として、顔が馬で、体を覆う  
鱗が魚、足の爪が鳥で、角が羊  
なのだそうです。これらの特徴  
は、それぞれ農耕・漁業・狩  
猟・牧畜という大切な生産手段  
にたとえられていて、それらを  
司るということで皇帝をイメー  
ジしたのでしょう。そこで、皇  
帝の持ち物や調度品などには龍  
の絵が描かれたり、彫刻された  
りしました。庶民の味の代表で  
あるラーメンに龍の絵を描くこ  
とで、皇帝様がお食べになるよ  
うなおいしいものだと言いた  
かったのだと思います。



のお焼香用の香炉の裏に、龍頭  
がついているぐらいです。おそ  
らく、裏側についているので、  
どなたもお気づきにはならない  
と思います。この香炉は、もと  
は大きなお茶会のように使用し  
た湯沸かし器のようなものだろ  
うと言われています。炭をおこ  
した上に載せて、茶釜のお湯が  
足りなくなったら、ここから熱  
いお湯を補充したのでしょう。  
そのお湯の出口、これを蛇口と  
いうわけですが、それが龍の口  
からお湯がでるように作られて  
いるのです。きっと、皇帝がお  
飲みになるぐらいおいしいお湯

だったに違いありません。その  
湯沸かし器のようなものをお  
焼香用の香炉として使っていま  
す。

## ■龍の前身

圓福寺には、龍の天井絵も、  
龍を描いた仏具もありませ  
ん、龍の前身は、庭にたくさん  
おります。それは池の鯉です。  
鯉の滝登りというように、池に  
水が落ちてくる所に集まるとは  
その水を登って行くような仕草  
をしているのをよく見ます。中  
国黄河の鯉は、百年の歳を経る  
と中流域にある龍門という厳し  
い滝を遡って龍になると言われ  
ました。「龍門の滝」は、黄河  
が山西省と陝西省に流れて行く  
辺りにあり、兩岸の絶壁が向き  
合い、宮殿の門のような形をし  
ていたののでこう呼ばれていま  
した。流れが激しく、魚達はこ  
から上に進むことができなかつ  
たので、ここを上りきることが

できた鯉は、龍になれると信じられていたのです。これが、「登竜門」の云われで、出世するのに通り抜けなければならぬ関門を「登竜門」と言うようになったのです。

庭の池を見ていても、いまだに、水の落ち口から登って行った池の鯉を見たことがありませんから、出世とは縁遠い鯉ばかりなのか、まだ百歳になっていないのか、どちらかだと思いません。鯉より先に登竜門を越して行ったのは、檀家さんが釣ってきて放した、うなぎの幼魚ぐらいいですが、果たしてうなぎは登竜門を越して何になったのか、その姿を二度と見ることはありません。



## ■龍の正体

竜門の滝を登った鯉が龍になった後、さらに五百年経つと「角龍」、千年経つと翼を持つ「応龍」になると言われています。翼を持った龍は、昇り竜となって天に昇っていききます。そして、下り竜となって天から下って来るときに、宝珠を持って下りてきます。お寺の本堂などの正面の柱に、龍の彫り物があると、たいがい左右に昇り竜と下り竜が配されています。そこには、お悟りを求めている姿を昇り竜で表し、お悟りを宝珠で表して、下り竜は宝珠をもって降りてくるという教えが表されています。そのお悟りの象徴である宝珠を持って下って来る所に、日本に伝わってきた大乘仏教の良さがあります。お悟り自体は個々



の修行の結果なので、お悟りを得てしまえば自らが救われてそれで済む話ですが、そこからお悟りを携えて私たちのもとに降りてきて、衆生を救おうとする慈悲の姿を見ることができません。

## ■及ばぬ鯉の滝登り

これはなにも、下り竜となってお悟りを得なければ救うことができないのかということ、そうではありません。

幼稚園の降園時間になると、ときどき子どもたちが池の周りに遊びに来ます。なかには、小石を拾って池に投げ入れる子や、草をちぎって池に入れて、叱られる子もいます。本堂前の手水鉢も、ときどき子どもたちが砂利を入れていくことがあります。どうして子どもは水を見ると物を投げ入れたくなるのか、いつも不思議に思うのですが、手の届かないものに道具を

使って働きかけをしようというホモサピエンスの進化の過程で獲得した本能かもしれないなどと思ったりもします。それにしても、子どもたちは飽きもせず池の鯉を見たりしています。きつと、私たちには不可能な水中での優雅な動きへの憧れだったり、自由に泳いでいるさまがうらやましかったりするからだろうと勝手に想像しています。大人の言葉でいかえれば、癒されるだけでも言うのでしよう。

子どもたちの姿を見ていると、この先、千年もの歳月を待って龍になって、お悟りの宝珠を手に入れてから人を救うなんて言わなくても、人を癒したり和やかな気持ちにさせることは可能なのだと、鯉を見て納得させられるのです。

仏教には、上求菩提下化衆生（じょうぐぼだいげけしゅじょう）という言葉があります。自らのお悟りを求めると同時に、周りの人とともに、または周り

の人たちをお悟りに導くという意味です。

ある禅の高僧が言ったことを思い出します。俺が地獄に落ちることなんて一向に構わない。人々の悪を全部引き受けて、俺が地獄に落ちることでも人が救われるなら本望だ、と。つまり、上求菩提下化衆生は、自分はお悟りなんて程遠くても、周りの人が救われたらいいという意味もあります。

### ■龍吟すれば雲起こる

今年の干支は龍で、龍は皇帝を象徴したり、宝珠を手にした龍はお悟りを得た人にもたとえられる。しかし、龍の前身である鯉は、百年の年を重ね、竜門をくぐり、そこから千年以上の時を経てようやく龍になって天に昇って宝珠を手に入れることができると言われます。当然、私たち人間の寿命の間には果たせないことになってしま

ます。しかし、上求菩提下化衆生で、なにも龍にならなくとも、鯉のまま、私たち凡夫のままで、人を癒したり和やかな気持ちにさせることができるのです。

「龍吟すれば雲起こる。」とは、龍が威厳を誇示するようにガオーッと咆哮（ほうこう）するわけではなく、ちよつと唸（うな）るわけです。すると、雲が起こり雨が大地を潤すのです。私たちも龍ほどではなくとも、龍が吟ずる程度のちよつとした気遣いや、ちよつとした優しい言葉で、子どもが池に石を投げ入れたときに波紋が広がるように、周りの人の心を潤すことができたなら、素晴らしい年になるのではないでしようか。





# 四国あるき遍路の旅

## 一巡目第八回

平成二十三年

十二月二十五日(金)

~二十七日(日)

参加者 十八名

この記事は、歩き遍路写真集として、ご参加の皆さんにお配りした記録集の抜粋です。

### 延光寺で思い出すこと

毎回、あるき遍路に行く前に、かつて一人で歩いたときの記事をめぐってみますが、延光寺門前の民宿「ひょうたん」に泊っていました。延光寺をお参りした後、その宿を探してみましたが、それらしき場所の建物は閉鎖されていました。記録では、この民

第8回			平成23年11月25日~27日					
期日	曜日		予	定	食事・宿泊			
1	11月25日	金	7:30 羽田空港集合	8:05 羽田空港 ANA561	09:35 高知龍馬空港	10:05 高知龍馬空港	【歩いた距離】約3.2km	
			空港連絡バス 10:39着	11:34 高知駅 JR土讃線「南風3号」	13:24 中村駅	13:30 中村駅	屋食:「日曜市のおぼあ弁当」 安藤商店 088-883-1000	
2	11月26日	土	13:50 土佐くろしお鉄道	14:00 平田駅	14:45 平田駅	15:15 延光寺	【歩いた距離】約20.9km	
			15:30 延光寺門前よりタクシー分乗(約50分)	16:30 柏島	16:30 和泉屋旅館	18:00 和泉屋旅館	「和泉屋旅館」 幡多郡大月町柏島 TEL 0880-76-0039	
3	11月27日	日	6:00 朝食	7:05 和泉屋前バス停	7:40 宿毛駅	8:30 宿毛駅	【歩いた距離】約9.3km	
			9:35 松尾峠登り口	10:15 松尾峠	10:50 松尾峠	11:15 松尾峠	「かめや」 南宇和郡愛南町柏2053- TEL 0895-85-0007	
3	11月27日	日	11:40 小山の舗装道路に	12:05 壱石の神社(ト)	12:20 壱石の神社(ト)	12:35 一本松バス停	【歩いた距離】約33.4km	
			12:41 一本松バス停	13:00 平城札所バス停	13:05 平城札所バス停	13:40 平城札所バス停		
3	11月27日	日	7:00 朝食	8:00 かめや旅館	8:30 柳水大師	10:45 小祝中橋		
			10:55 小祝中橋	11:25 大門バス停	11:49 大門バス停	11:49 大門バス停		
3	11月27日	日	12:26 宇和島駅	14:56 宇和島駅	16:18 宇和島駅	16:40 松山駅		
			16:55 空港リムジン	17:40 松山空港	19:00 羽田空港	19:00 羽田空港		



延光寺に  
来ると、あ  
の老遍路を  
思い出すの  
ですが、す  
でに二十五  
年の歳月が  
たち、ひよ  
うたんも閉  
じられたよ

宿で同宿した広島から来たとい  
う八十五歳の女性のお遍路さん  
に、土佐名物の皿鉢料理と宿泊  
代をお接待してもらっています。  
この人は、同行の人から先  
生と呼ばれていて、もう八十回  
以上回っていると行って、金色  
の納め札をいただきました。  
そして、土佐の修行の道場も  
終わるのだから、伊予（菩提の  
道場）に入ったら、今まで断っ  
てきたお接待を受けることにし  
ようと書いてあります。それま  
でに、自動車のお遍路さんに、  
どうぞ乗って下さいと言われる  
ことがよくあったのです。

### 柏島

うに、あの老遍路もこの世には  
いないのだろうと、感謝ととも  
に心の中で合掌するのです。

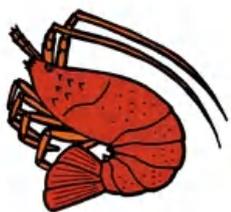
延光寺を後にして、東宿毛駅  
までは歩く予定でしたが、この  
日は宿毛からタクシーでも四十  
分の柏島で宿泊予定。延光寺を  
出て間もなく、柏島を紹介して  
下さった、柏島出身の沖山さん  
から電話がありました。宿には  
何時に着きますかという問い合  
わせ、日も短いですがからねえと  
の言葉に、えーい、お接待をい  
ただいたと思って、タクシーを  
呼んで一路柏島を目指そう！と  
決めました。

柏島は、遍路道からもかなり  
離れており、遍路で訪れること  
のない場所ですが、沖山さんと  
のご縁で訪れることができました。  
そうでなければ、一生知ら  
ずにいるところでした。島の  
隅々まで見たかったのですが、  
すでに陽も沈んでしまい、宿に、

戻ることにしました。宿の座敷  
には、お茶と手作りの草餅のお  
接待。よもぎのふんだんに入っ  
た手作りの草餅は、ポリユーム  
もふんだんで、おいしくいただ  
きました。

夕食は、島の魚、イカの天ぷ  
ら、とこぶし3個も、そして、  
沖山さんの差し入れのゆでたて  
の「伊勢エビ」を弟さんの亀井  
実さんが届けてくれました。し  
かも一人一尾ずつ。前回の焼酎  
のお接待も驚かされましたが、  
伊勢エビには一同さらに驚嘆さ  
せられました。

テレビの旅番組では、こんな  
伊勢エビを食べるシーンをみる  
のですが、伊勢エビを目の前に  
して皆が即席グルメリポーター  
と化して、伊勢エビと記念撮  
影。でも、伊勢エビの漁獲量は  
千葉県が全国第一  
位だそうで、その  
千葉県民が、高知  
で伊勢エビに感動  
している姿は、な



なんとなく面白い取り合わせでした。

**松尾峠到着！**



やはり一巡目と比較してしまいがちですが、合

羽を着て坂を登っていくと、内側からも濡れるし、と行って合羽を脱ぐわけにもいかず、疲れて腰を下ろすこともできませんし、気分を癒す景色も、雨に煙って見えないのでした。今回は、天氣に恵まれ、足元が滑る心配もなく、途中のベンチで腰を下ろすこともでき、木々の間から少しずつ宿毛湾が顔をのぞかせ、約四十分で松尾峠に到着しました。後続も、約三十分遅れぐらいで全員到着。雨の日に登った時には、何時間もかかったような気がしていましたが、晴れていれば難所でもなかったような気がしました。また、松尾峠の東屋が、一巡目ではよう

やくたどり着いた避難小屋のように思えたのですが、今回はどこにでもある東屋にしか感じられなかったのも天候によるのでしよう。

松尾峠の大師堂を開けさせてもらい、全員で般若心経をあげて、松尾峠を後にすることになりました。いよいよ、伊予の国に足を踏み入れます。

**観自在寺で考えたこと**

高知最後の札所延光寺には、山門を入ったところに亀の彫り物がありました。愛媛最初の札所、観自在寺にはカエルの彫り物があり、側に語呂合わせの標語が書いてあり、私も考えてみました。



**「かえるの五戒」**

ふんぞりかえる  
そっくりかえる  
さしつかえる  
にえくりかえる  
あきれかえる

と、かえるづくしの戒め。もう一つ。  
**「かえる三徳」**

はらをかかえる  
いきかえる  
われにかえる

と、かえるにかけた大切なことで、ユ一モアを忘れないこと・生き生きと日を過ごすこと・自分を見失わないこと…なんて説明をつけたいとわからないようでは標語にはなりませんね。

**せつかくの歩きだから**

観自在寺門前の食堂で昼食となりました。注文したものに時間がかりそうだったので、ここで提案をさせてもらいました。ここから今日の宿までは

ずっと国道を歩く道。バス路線にもなっているの、ここから路線バスに乗って移動というところでもいいのですが・・・と。ところが、「せっかく歩きに来たのだから歩きましょう。」との頼もしい意見が出るではありませんか。それでは五時迄に宿に着くようにと話はまとまり、ご飯を終えて出発。

出発するや、皆すたこらと国道を歩いて行きました。私はといえば、御荘の海沿いの道を歩いたり、途中古い遍路道を見つけては国道をそれたり、田んぼのあぜ道を歩いたり道草しながらの歩きです。

一人で歩いているのなら、こんなにのんびり歩くことはありえませんが。その日一日、歩けるところまで歩いて、夕方になって宿を探して泊るといふ歩き方だからです。ところが、団体の歩き遍路では、途中で宿を変更したりすることもできないので、時間が余ればのんびり歩け

るのです。でも、この先どんな山坂があるか、どれぐらい時間がかかるか分からないなどという不安があると、先へ先へと急いでしまうのでしょね。せっかく遍路に来たのに、なにやらの日々の生活に似ていると思いつ歩いてみると、ようやく道は海沿いに出ました。

室手海岸というのだそうです。のんびり歩いてきたので、ちょうど夕日の沈む時間になりました。この夕日を皆にも見せたいなと思いましたが、前方に人影も見えず、私が一人占めさせていただきました。夕日を眺めてから、宿に着いたのはちょうど五時でした。



旧内海村柏の遍路宿「かめや」の前で。

## 第9回

参加者募集

約20名

### 2巡目

# 四国あるき遍路の旅

二巡目第九回の参加者を募集いたします。

九回目は、宇和島から北上する三ヶ寺をお参りします。峠越えが、齒長峠と鳥坂峠の二か所。

【日程】二月二十四日(金)

～二十六日(日)

【旅程】

【第1日】 松山空港からバス・電車で宇和島經由、務田

駅下車後歩き。四十一番・四十二番を打ち、齒長峠を越えてへんろ宿に宿泊。歩く距離は約10km。

【第2日】 四十三番参拝後、歩いて鳥坂峠を越えて、大洲市内に宿泊。歩く距離は約25km。

【第3日】 大洲から「十夜ヶ橋」を参拝して、内子まで歩き。内子から電車・バスを乗り継いで松山空港から帰路。歩く距離は15kmぐらい。

【参加費】 六万円前後

【申込】 お電話・ファックス・メールなどで、お寺までお申込下さい。

# 第20回 圓福寺寺子屋

## 禅童会

平成23年7月23日(土)～24日(日)



ぜんでら く ね すわ  
禅寺で、「食う・寝る・坐って」なにを感じたか？

「がんばった」

小中台小五年

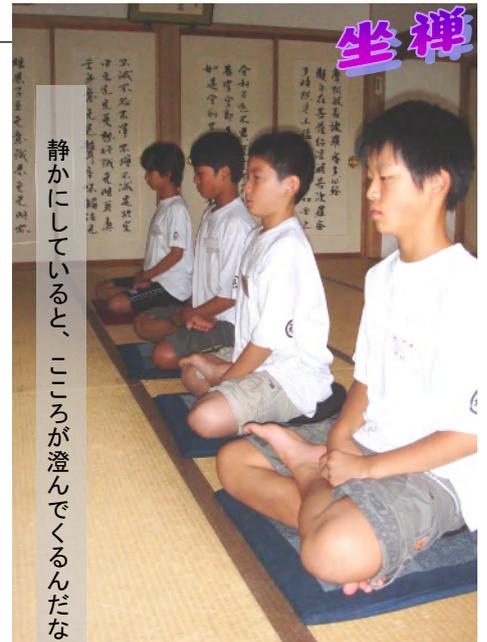
赤松

正太

あかまつ しんた

ぼくが一番がんばったことはなぜんです。今まででこんななにかあったこととは無いというほどつらかったです。三十分を休みを入れて二回やる時は、二回目が苦しくて、痛くて動いてしまったことが何度かあります。それにいつもは一時間や三十分、足をくんで動かないなんてことは一度もないので足がしびれてかかかなくなったりします。それで、けっきょく集中がきかれて、三度たたかれました。でもたたかれると、がんばろうとそのたびに思い、なんとかなぜんの時間をのりきれなのです。そんななぜんでも、気持ちいい時がたまにあります。風がふいで、木にあたって自分にあたる時です。その時だけ、痛みや苦しさをかんじなくなり、とてもいい気持ちになります。でも、その気持ちいい時は一秒もなく終わってしまいます。そしてまた、痛みがもどってきます。ぼくは、なぜんでみんな痛くないのかと思います。でも、みんながまんしているのかもしれません。もうなぜんはしばらくやらないと思います。でも、この痛みをしっかりと覚え、これからはしっかりと

坐禅



していいこうと思います。  
一番目がんばったことは、うどん作りです。一番苦せんしたことは、水をびったり百五十グラムにしなればならないので、びたりにしようかとがんばったけど、百五十・五や百五十一とひようじされてイライラしました。なんとか、その後びたりになり、その後もがんばって作ったうどんはとてもおいしかったです。  
三番目がんばったことは、じゃがいもほりです。被災者の人に早くとどいておいしく食べてほしいです。  
この圓福寺にきて、ぼくは心がいかわった気がします。これからはもっとがんばり、もっとしっかりと生きていきたいです。

## 「禅童会に来て」

小中台一年

赤松 優太  
あかまつ ゆうた

僕は禅童会に来て学んだことがいくつかあります。その中でも一番学ぶことがたくさんあったのは、坐禅です。坐禅では自分に厳しくし、何事にもがまんすることを学びました。

一番驚いたことは、「食事」です。今はテレビの電源を消し、家族と話しながら食べるのがあたりまえです。しかし禅童会での食事は、全員だまり、物音を立てずにする食事でした。これには一番驚きました。

次に一番「楽しかった」ことです。一番楽しかったイベントは、「東日本大震災被災地支援ボランティア」でした。同じ班の人と手伝い、協力しあっ



て、じゃがいもを取ると言う「協力」を学びました。それぞれが役割を決め、じゃがいもを掘る人、それを集める人、箱に入れ分ける人と、全員に「責任」を感じました。



僕が学んだことはこの「協力」、「責任」、そして「自分への厳しさ」、「礼儀」です。

最後に禅童会の感想です。禅童会は普段過ごす事のない寺で過ごします。なれない場所で暮らすのは少し大変でした。けれどもなれない事をするからこそ、いい体験になるのではないのかと思いました。実際に体験になりました。特に、うどん作りは人生初でした。食事のときに、「食事五観文」を読むことも人生初でした。朝から「心経」を言うのも人生初でした。このような生活は僕にとって、とても不思議で、興味をひきました。

僕は来年で中二になります。中二はきつと勉強で急がしいと思います。なので、来年はこの禅童会に来れないかもしれないけれど、今回の経験を生かしてこれからの生活もがんばっていきたいと思います。

## 「禅童会で得たこと」

轟町小六年

小林 悠之介  
こばやし ゆうのすけ

今回で三回目の禅童会。来年はもう中学生なので、参加することができないかもしれませんが。だから今回は色々な意味でしっかりと充実した禅童会をすごしたい、そう思いました。

禅童会のしおりが配られ、プログラムを見ると、「東日本大震災、被災地支援ボランティア」と記されています。じゃがいもほりをするというとき、今までできていたどのぼ金はしたけど貝たの行動したことがなかった。ので、何か形にできるかもしれないと思いました。

そしてじゃがいもほり。くわやスコップが重く、体力を使っても大変でした。でも、自分が一生けん命にほったじゃがいもが、被災地のみなさんにとどくんだ、と思うとなんだかがんばれました。帰りのバスでは満足感やたっせいでいっぱい



した。(おみやげのじゃがいももたくさんゲット)流れたあせが心地よく感じました。

二日目の朝、ボーとしているときに「最後の一日だ。」と頭にうかんできました。まだ満足していない坐禅、楽しみなうどん作り、全てに関して自分で「やりとげた」と思うようにしたいと思いました。

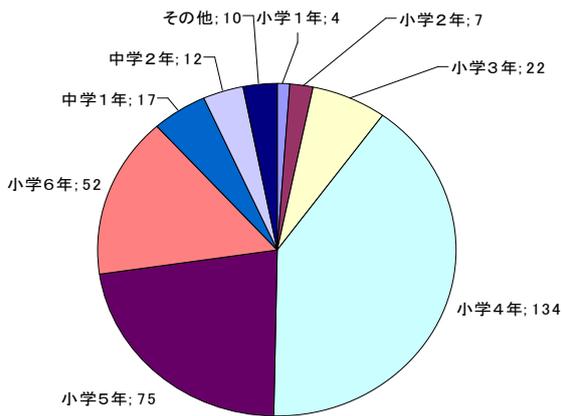
時間はあっという間にすぎました。最後の坐禅。全てはつながっていて一つ一つ心をこめてやりとげる、という事を学びました。足がいたくなかったけど、最後は今まで以上の思いでせすじをのびました。

まったく動かなかったわけじゃない、何回か動いてしまいました。でも、今までが一番がんばったと思います。まだ百パーセントにはほど遠いけど、坐禅だけじゃなくすべてにおいて九十九パーセントを目指します。百パーセントは無限にあると思います。

そして今回の禅童会で、一段上に登れたと思います。これから、さらに色々大変なことがたくさんあると思います。でも、にげずに一段一段確実に登っていききたいです。

禅童会のおかげで、ぼくはいろんな事に気づきました。これからも生かしていきたいです。

禅童会参加者学年分布

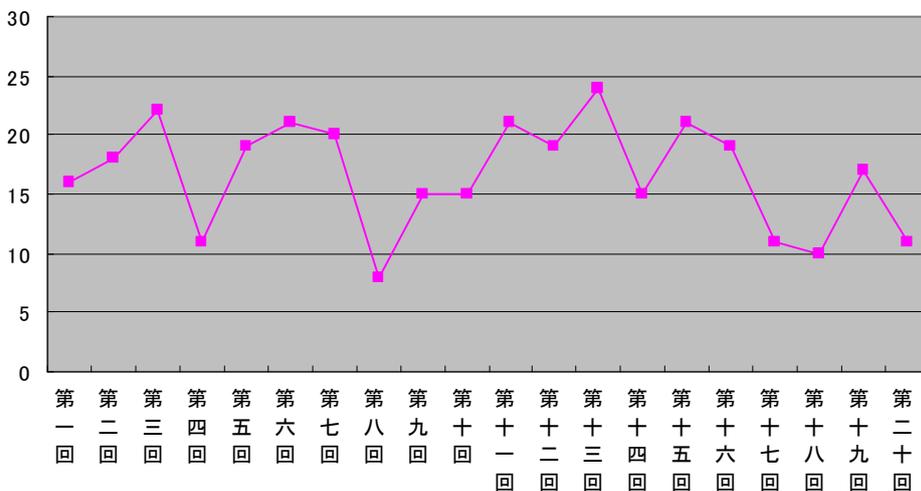


禅童会は、今年で二十回目でした。第一回目に小学四年生で参加した人は、もう三十才にもなります。

最初は一日だけでしたから食事もお昼の一回だけでした。第十回からは一泊二日となり、食事も四回いただくことになり、もちろん坐禅の回数も増えました。その代わり、茶道体験やうどん作りや映画会などのたのしいことも増え、盛りだくさんな内容に変わりました。

一番遠くから来た人は、アメリカからやってきました。といっても、アメリカの学校に行っている日本人です。女子高生が参加したこともありました。親子で参加した人もいました。

禅童会参加人数



	年	参加人数
第一回	平成3年	16
第二回	平成4年	18
第三回	平成5年	22
第四回	平成6年	11
第五回	平成7年	19
第六回	平成8年	21
第七回	平成9年	20
第八回	平成10年	8
第九回	平成11年	15
第十回	平成13年	15
第十一回	平成14年	21
第十二回	平成15年	19
第十三回	平成16年	24
第十四回	平成17年	15
第十五回	平成18年	21
第十六回	平成19年	19
第十七回	平成20年	11
第十八回	平成21年	10
第十九回	平成22年	17
第二十回	平成23年	11
合計		333

(12月の「園だより」から)

絆(きずな)

今年も残すところ、あと少し  
 になってしまいました。

振り返ってみると、今年は、  
 なんととっても東日本大震災と  
 津波、原発事故に尽きる年でし  
 た。

それでも、本園では建物の被  
 害もなく、先日の放射線測定で  
 も異常がなく、子どもたちが元  
 気に外で遊べるのは幸いです。

悪い影響だけでなく、良いこ  
 ともありました。なにより、先  
 日、年長さんが、福島から鴨川  
 に避難している施設の人たち  
 に、自分たちで収穫したお米を  
 届けたり、被災地の幼稚園にお  
 米を送ったりする活動  
 ができました。このこ  
 とで、お米を育てた  
 り、薪でご飯を炊くこ  
 とを体験したことはい



うまでもなく、同時に、幼稚園  
 という小さな社会だけでなく、  
 もっと広い世界に目を向けるこ  
 ともできました。(同封の冊子をこ  
 覧ください。)

鴨川に避難している人にお米  
 を届けたNHKニュースは、た  
 くさんの反響をいただきました。  
 小さな子どもたちでも、あ  
 んなにすばらしいことができる  
 んですね、とか、さすがはお寺  
 の幼稚園ですね、とか、子ども  
 たちには一生忘れられない思い  
 出になりますね、などなど、メ  
 ディアの力はすごいと思いまし  
 ました。

そんな中、こんな電話を頂き  
 ました。

離れた所に住んでいて、普段  
 は連絡もよこさない息子さんか  
 ら電話があったのだそうです。

「何か用事なの？」と聞くと、  
 「うちのお寺さんの幼稚園がテ  
 レビに出たのを見たんだ。和尚  
 さんの幼稚園はいいことをやつ  
 てるよね。」という、ただそれ



だけを言いたくて電話  
 をよこしたとあって、  
 普段連絡もくれない息  
 子さんから電話が来た  
 ことをうれしそうに話  
 してくれました。

子どもたちが取り組んだ、小  
 さな被災地支援が、いろんな人  
 の縁を経て、日頃疎遠な息子さ  
 んの声を聞かせるようなことに  
 まで広がるなんて、目に見えな  
 いところでたくさんのおすばらし  
 いことにつながっているんだな  
 あと、またまたすごいと思いま  
 した。

私たちは一人で生きていけな  
 いと同時に、私たち一人一人  
 は、知らないところでもたくさ  
 んの縁・・・今はやりの言葉だ  
 と「絆」(きずな)でつながっ  
 ているんだと、子どもたちの活  
 動から改めて、気づかされまし  
 ました。

家族との絆、親類との絆など  
 を深める、よいお正月をお迎え  
 ください。

# 土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの方の縁が広がります。

### 【期日】

一月十五日 花園会新年会  
二月十一日 仏教シアター

三月 法話会  
四月十四日 歩禅会

五月十九日 新緑の養老溪谷(予定)  
六月十六〜十八日 市原ボランテラ

七月二十一日・二十二日 新潟・湯沢方面(予定)  
禅童会お手伝い

八月二十五日 地蔵盆お手伝い

### 【時間】

土曜日午後六時〜  
テーマイベントの後、懇親会

### 【会費】

花園会員 男性 二千元  
女性 千円  
花園会員外 男性 三千円  
女性 千円

### 【申込】

お寺までご連絡ください。

# 写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字で書かれたとても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

### 【前期期日】

二月五日 七月一日  
三月四日 八月五日  
四月八日 九月二日  
五月十三日 十月七日  
六月三日 十一月四日

### 【後期期日】

### 【時間】

午前十時〜十二時

時間変更です!

### 【会費】

一期五回で、花園会員三千元  
会員外 五千元

### 【講師】

齊藤 加代子先生・住職

### 【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

### 【定員】

二十名

### 【申込】

お寺までご連絡ください。



# 茶禅会

日本の茶道は深く臨済宗の教えを随所に体現しております。「わかりやすい」をモットーに、基本を大切にしながら茶禅会を目指します。ウン十の手習いでも構いません、お寺で茶道に親しんでくださる皆様のご参加をお待ちしております。

### 【日時】

毎月第二・第四火曜日午後一時半〜

### 【会費】

月二千元

### 【講師】

圓福寺寺庭 宮田 宗尚

### 【服装】

白い靴下(それ以外は自由。)

### 【用意するもの】

裏千家用の扇子・帛紗・懐紙  
(茶禅会で購入することもできます。)

### 【定員】

五〜六名

### 【申込】

お寺までご連絡ください。  
ご不明な点など、何なりとお寺までお問合せください。





# 平成24年年忌表

百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	回忌
大正二年	昭和三十八年	昭和五十五年	昭和六十一年	平成二年	平成八年	平成十二年	平成十八年	平成二十二年	平成二十三年	亡くなった年

法要の会場として、どなたでも本堂がご使用できます。お参りの方はすべて椅子席ですので、ご安心下さい。また、法要後のお膳のご用意もできますので、お気軽にご相談ください。

## 平成二十三年下半期 お寺と和尚の記録抄

7月	11日～16日	七月盆棚経
23日～24日	地藏盆	
8月	5日	月例役員会
9日～16日	八月盆棚経	
14日	佐倉報恩寺、施餓鬼会出頭	
15日	佐倉宝樹院、施餓鬼会出頭	
16日	佐倉円心寺、施餓鬼会出頭	
17日	四街道清久寺、施餓鬼会出頭	
18日	取手長禅寺、施餓鬼・法話	
20日	地藏盆	
9月	2日	月例役員会
8日	千葉市幼稚園協会稲毛ブロック会	
15日	平林寺、敬山忌・晋山式衆評	
20日	根岸円光寺、秋彼岸法話	
24日	富浦満蔵寺、施餓鬼会出頭	
26日	幼稚園、稲刈り 於市原	
10月	1日	幼稚園、入園説明会
7日	月例役員会	
8日	幼稚園、運動会	
14日	第33回花園会ゴルフ大会	
10月	15日	幼稚園、良親セミナー
18日～20日	ご詠歌全国大会見学 於妙心寺	
22日	幼稚園、親子コンサート・良親セミナー	
23日	涅槃精舎毎歳法要	
28日	土曜会、涅槃寄席瀧川鯉昇師匠	
31日	幼稚園年中組 秋たんけん 於市原別院	
11月	1日	部内役員研修会 於円覚寺
2日	幼稚園、願書受付	
3日～5日	幼稚園年長組 秋たんけん 於市原別院	
7日	幼稚園、職員研修旅行	
8日	東京教区住職研修会 於香取市	
12月	8日	月例役員会
12日	土曜会、市原収穫祭	
16日	スマートフォン通信写真会	
25日～27日	二順目第八回四国あるき遍路の旅	
12月	2日～3日	月例役員会
10日・11日	幼稚園、おさらい会	
16日	幼稚園、もちつき	
17日	土曜会、ボランティア大掃除	
31日	年越しまいり	

平成二十四年  
年間行事予定

5月 25日 第三十四回 花園会ゴルフ大会	4月 8日 降誕会(花まつり)	3月 31日 4月1日 冬の寺子屋 和尚と滑ろうin苗場	2月 24日~26日 二巡目の第九回 四国あるき遍路の旅 お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃圖の掛け軸を掛けて法要をします。 一〇ページのご案内があります。	1月 15日 花園会新年会 二十ページのご案内をご覧ください。	1月 1日~3日 新年修正会 仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。
--------------------------------	-----------------------	--	--	--	---

10月 26日 第三十五回 花園会ゴルフ大会 禅宗初祖「達磨大師」の「命日」。	8月 25日 地藏盆 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	7月 11日~16日 七月盆の棚経 七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。	7月 8日 山門施餓鬼会	7月 7日 初盆・新入檀信徒 施餓鬼会 この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。	7月 21日~22日 圓福寺寺子屋 「禅童会」 一泊二日の子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんさんの参加を待っています。	8月 9日~16日 八月盆の棚経 八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。
---	--	---	--------------------	---	--	--



釈迦苦行像【圓福寺蔵】

12月 31日 年越しまいり あまざけ・般若湯・年越しそば・福だるま・お守り・新春祈禱など、たくさんお参り下さい。	12月 15日 歳末ボランテラ 花園会忘年会 お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	11月 8日 成道会	11月 16日~18日 二巡目の第八回 四国あるき遍路の旅	11月 10日 市原別院収穫祭	10月 21日 土曜会「涅槃寄席」 永代供養の方々の法要と、生前戒名の授戒会。	10月 21日 涅槃精舎毎歳法要
--	--	------------------	--	-----------------------	--	------------------------



——圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんのお越しをお待ちしております。

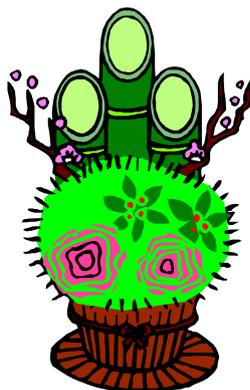
圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。



平成24年  
西暦2012年  
仏暦2555年



- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英

圓福寺住職

宮田宗格

圓福寺花園会

日時 一月十五日(日)

午前十一時 新春ご祈禱  
正午 新年懇親会

会費 三千円

(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受付です。

申込 電話・ファックス・メール

などで、お寺までご連絡下さい。